



# はなみずきだより

6・7月号

令和8年6月5日(金)  
武蔵野市立第四小学校  
特別支援教室 拠点校校長  
小 泉 裕 樹  
はなみずき教室

## 「三步進んで、また一步」

武蔵野市立第本宿小学校  
校 長 越 前 信

新年度が始まって二か月、子どもたちは新しい環境の中で、それぞれのペースで歩みを進めています。毎日順調に前進しているように見える時があれば、立ち止まったり、うまくいかず後戻りしたように感じたりする時もあります。しかし、子どもの成長とは、まさに「三步進んで二歩下がる。それでも、一步は進んでる。」の繰り返しなのだと感じています。

はなみずき教室では、所属学級での学びと、本教室での個別指導とを行き来しながら、一人一人の力を育てています。所属学級では、多くの友達との関わりの中で社会性や協働する力を身に付け、集団の中で多くの経験を重ねています。一方、はなみずき教室では、その子の個性や特性に応じた支援を通して、自分に合った学び方を見付けたり、自信を高めたりしています。所属学級でうまくいかなかったことを、はなみずき教室で整理し、安心して再び挑戦できるようになることがあります。また、はなみずき教室で身に付けた力を所属学級で生かし、「できた」「わかった」という経験につなげていく姿も見られます。この二つの場を行き来することが、子どもたちの安心感や自己肯定感を育てる大切な力になっています。

子どもたちは一人一人、それぞれの力や可能性をもっています。その成長の形も速さも様々です。小さな前進を大切にしながら、時には後戻りする姿も温かく受け止めていくことを大切にしていきます。これからも保護者の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いします。



## 個人面談ありがとうございました

ご多用の中、個人面談をありがとうございました。面談で伺ったことを、今後の支援に生かして参ります。ご心配な点等ありましたら、いつでも担当教員までご連絡ください。

## 【お知らせ】

○1 学期指導終了 7月14日(火)・2学期指導開始 8月31日(月)

## 【お願い】

○はなみずき連絡袋について

忘れた時用の連絡袋が返却されず、不足している状態が続いております。未返却の連絡袋がご家庭にある場合は、各学校の専門員までご返却ください。

## ○連絡ファイルについて

1、2年生は B5 の紙ファイル、3年生以上は Classroom にて指導記録をお送りしています。以下、Classroom の運用方法についてご連絡です。ご確認ください。

### 【運用方法】

- ①基本ははなみずきの指導日の翌登校日までに、はなみずき担当がストリームに投稿します。
- ②在籍学級担任、はなみずき担当は、勤務時間内に投稿します。ストリームの投稿がされた後に、担任・保護者がコメントを投稿します。
- ③「はなみずきだより」や「面談日程調整」などの資料もクラスルームで投稿します。
- ④原則、学習用タブレットでご使用ください。

## ○はなみずき授業参観について

ご希望される場合は個別学習の参観をしていただけます。事前(1週間以上前までに)に連絡ファイル等でご連絡をいただきますようお願いいたします。※小集団活動のみのお子さんの場合別途ご相談ください。

# 4・5月の活動報告

## 「自己紹介～よく見よう、よく聞こう」



4月は出会いの季節です。初めて小集団に一緒になった子供同士で自己紹介をし合いました。緊張しながらも自己紹介する子供たち。はなみずきのきまり、学習のルールなどを学んだ後に、学級において重要である、「見る」「聞く」力を高める活動をしました。

見るポイントとして、「全体を見る、集中して見る、細かく見る」、聞くポイントとして、「相手を見て一生懸命 うなずきながら 笑顔で 終わりまで」を確認し、活動の中で聞く中のめあてを子供たち自身で決めました。

「見る」活動では、「サイレントだるまさん」など、他者の動きを意識して見る活動に取り組みました。「サイレントだるまさん」は、鬼がボールから手を放している間だけ動くことができます。「聞く」活動では、「忍者修行」をしました。二人の敵忍者の声を聞き分けて、進む方向や触るものなどを選択しながら、お宝を回収し、自分の陣地まで持ってくる活動です。先生たちの動きを見分け、声を聞き分けながら、ピタッと止まれないときには自分からスタートに戻りながら、楽しく集中して取り組みました。

## 「認知機能強化を目指して」



はなみずき教室では、認知機能強化トレーニング「コグトレ」を活用し指導を行うことがあります。子供たちの実態に合わせて、紙媒体やICTを活用しています。「先生の話聞き取りにくい」「同じ間違いを繰り返してしまう」「集中力が続かない」といった困り事の陰には、記憶・言語理解・注意・知覚・推論・判断といった認知機能の弱さがあるのかもしれない。それぞれの力を伸ばすための課題に取り組み、学びの土台をつくっているところです。

「これ得意なんだよね!」「言いながら覚えるとやりやすい」など、活動の中で子供たちは自分自身の得意不得意に気付き、自己理解につながる児童もいます。楽しく学ぶ中で「できた」の経験を大切に、指導に取り組んでいきたいと思えます。